

# 婦人運動

復刻版

全30巻・別冊1

奥むめお主宰  
本体揃価格 3000.000円

1923(大正12)年→1941(昭和16)年

職業婦人社・婦人職業相談所  
産児制限相談所・婦人セツルメント  
働く婦人の家の設立、  
産児調節・堕胎法改正・消費組合  
婦人参政権・婦人公民権……  
つねに無産女性の  
立場にたって繰り広げられた  
女性解放運動19年間の記録！



不二出版



# 『職業婦人』

創刊號

## 發行に際して

あらゆる方面にその改造の急を告げてゐる現在の社會で、私たちは長い間なほざりにされてゐる婦人の力を生かすために、互ひに手をつなぎ合つて眞に社會の一員として進みたいと思ひます。今、月刊雑誌『職業婦人』を發行するにあつて、私たちは自分達の微力が少しでも餘計にこの希望を充たすために役立ちたいと念じてゐます。

職業婦人の問題は、近年急激に社會に現れた極めて重大な問題であります。今日では、人々がそれを欲すると欲しないとに拘はらず、職業に就く婦人の數が日を追つて益々増加しつゝあるといふ事は争はれぬ事實であります。しかもそのおびただしい數に上る職業婦人が、果して如何なる状態に置かれてゐるであらうか。

この時にあつて、現在職業に就いて働いてゐる婦人は云ふまでもなく、所謂狹義の職業婦人でない人々も、等しく婦人といふ名の下に相一致して、この大きな社會問題解決のために協力すべきであらうと信じます。

『職業婦人』は、この目的の下に生れた一つの機關であります。志を同うする人々の支持に依つて、この雑誌の存在が益々意義多いものとなるやうにと願ひます。

### 職業婦人社の仕事

まづ次の四つから初めます。私たちは出来るだけ手近い處からその準備を整へて、新しい社會の建設を急ぎたいと思ひます。多くの同志の力添に依つて、次第に各方面に及ぼしたいものです。

- 1 月刊雑誌『職業婦人』の發行
- 2 研究講座、懇話會、講演會、その他
- 3 婦人の相互救援（職を求める方、人を求める方も御利用下さい）
- 4 職業婦人組合の促成

### 購讀者を募集します

同志の方々は何卒購讀者をお紹介下さい。一人が五人宛紹介して下さい。同志の方々は何卒購讀者をお紹介下さい。一人が五人宛紹介して下さい。同志の方々は何卒購讀者をお紹介下さい。一人が五人宛紹介して下さい。

## 産兒調節の問題

平生ならば、この四五年来の傾向として三、四、五月の卒業期の新聞の廣告面は、各婦人雑誌の競争的な結婚記事で、私たちはいゝ加減減版を立てたり、眉をひそめたりせられるのが常であるのに、今年の流行（？）は岸を換へて産兒調節問題に集注したやうである。各種婦人雑誌が産兒調節問題（その實、産兒調節の理論はもろくも云ひ盡くされてゐる。そして簡單である。而もその實行方法に亘る宣傳は一切禁止せられてゐるのであるから）

## 無産黨分立反對！

この好機にわれらは國民の信望を完全に失つた。然し、然し何ごぞ。たゞ一つあれば足りる筈のわれらの無産黨が八つも十もあつて、無産黨の進出すべき、まゝ、結局、みんなニセ者ならずとも大衆は就くべき處を知らずして戸迷ふことであらう。民衆はたゞ、政治に依つて一つでも多くの利益を毎日の生活の上に獲たいと思ひ、政治を踏み臺にして英雄の如く昇がれてゐる五人や十人の代議士を、新聞紙の報ずる處に依れば、無産黨は、

## 『婦人運動』の今日的意義

### ■復刻の辞

奥むめおが若い職業婦人たちとともに職業婦人社をつくり、機関誌として『職業婦人』を發刊したのは一九二三（大正一二）年のことであつた。奥むめおは、平塚らいてうや市川房枝らとともに新婦人協会をおこし、戦前の日本の女が得た唯一の政治的權利・治安警察法第五条改正を勝ちとつた女性運動家であつたが、その運動の経験から、生活者の実感から生まれる政治運動の重要性を痛感してゐた。

本誌は、『職業婦人』の誌名を『婦人と労働』そして『婦人運動』と改題するなかで、いわゆる市川房枝らの婦人参政権運動とも無産政黨主導の無産婦人運動とも一線を画し、貧困と失業と多産と因習に苦しみ日々の生活に追われる無産婦人や職業婦人の立場にたつた運動を展開した。奥むめおは、自分の仕事は社會革命の後衛であると考えたので、その運動も常に具体的で日常の生活の中に根ざしたものであつた。女たちが家庭生活すなわち消費生活を通じて社會の仕組みを知るための「婦人消費組合協会」、無産婦人とその子供たちがよりよい生活のために学び助け合う社會学校としての「婦人セツルメント」、働く女たちのスペース「働く婦人の家」を設立するとともに、産兒調節運動にも力を注いだ。

一九四一年廃刊まで一九年の長きにわたつて刊行された『婦人運動』は、生活者でありかつ労働者である女性の立場に一貫してたち、連帯を求めた運動の記録として、現在の女性問題に多くの示唆を与えてゐる。

日本近代女性史・社會運動史の研究者及び研究機関に必備の資料として復刻刊行するものである。

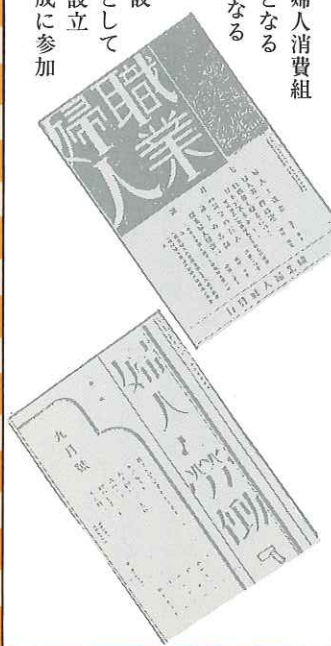
不二出版

婦人消費組合協会の発会式(1928年)



## 奥むめお

- 一八九五年・福井市に生まれる。戸籍名・和(明治一八) 田梅尾
- 一九一六年・日本女子大学卒業
- 一九一九年・『労働世界』記者となる
- 一九二〇年・富士瓦斯紡績工場の女工となる
- 一九二〇年・平塚らいてう・市川房枝とともに新婦人協会結成
- 一九二二年・山川菊栄が「新婦人協会と赤潮会(太陽)」で新婦人協会を批判したのに対し、女性運動の連帯を訴える
- 一九三三年・村上秀子・吉永文子らと職業婦人社を設立
- 一九三四年・娘を出産。婦京
- 一九三五年・政治研究会婦人部発足、中央委員となる
- 一九三七年・『婦人問題十六講』出版
- 一九三七年・関東消費組合連盟中央委員婦人部長となる
- 一九三八年・赤松常子らとともに婦人消費組合協会結成、委員長となる
- 一九三九年・『家の光』婦人委員となる
- 一九三〇年・金子しげらと愛児女性協会設立
- 一九三九年・産兒制限相談所を開設
- 一九三九年・女性の協同隣保事業として婦人セツルメントを設立
- 一九三二年・日本産兒調節連盟結成に参加
- 一九三四年・母性保護法制定促進連盟結成に参加
- 一九三五年・東京「働く婦人の家」設立
- 一九四〇年・婦人労働問題懇談会にて市川房枝・赤松常子らと「産業報國」のため女子の声を聞け」と申し入れる
- 一九四一年・『婦人運動』廃刊
- 一九四二年・『花ある職場へ』出版
- 一九四二年・『勤労女性と家庭』『新女性の道』出版
- 一九四三年・『たかね道場』を開く
- 一九四三年・『戦ふ女性』女性も働かねばならぬ』出版
- 一九四五年・敗戦
- 一九四七年・国民協同党結成、婦人部長となる
- 一九四八年・主婦連合会結成、会長となる
- 一九五一年・日本生活協同組合連合会設立、副会長となる
- 一九五二年・参議院決算委員長となる
- 一九五三年・第三回参議院議員選挙に当選
- 一九五五年・主婦連生活協同組合創立、理事長となる
- 一九五六年・主婦会館完成、理事長となる
- 一九五七年・『あけくれ』出版
- 一九五九年・第五回参議院議員選挙に当選
- 一九六一年・全国婦人會館協議会結成、会長となる
- 一九八八年・『野火あかあか』出版
- 一九九〇年・現在主婦連名誉会長





## 女性運動の 普段着の記録として

●一番ヶ瀬康子 いちばんがせやすこ

一九二〇年代は、当時工業化が進んでいたこの国でも、働く女性がふえていただけでなく、多様な職種につく人々がふえていたのである。わが国でも、例外ではない。それまで多かった繊維産業の女子労働者はいままでもなく、電話交換手、郵便局員、タイピスト、銀行員そして教員等、いわばホワイトカラーとして働く女性がふえていたのである。

『婦人運動』の創始者でもあり発行者、編集者さらにライターでもあった奥むめお先生は、自叙伝のなかで「みなそろって職業婦人に対する世間の評価の低さに怒っていたから、雑誌に対する期待は大きかった。創刊号をはじめとして、毎号彼女たちの職業婦人として生きる悲しみや喜び、いらだちがあふれるほど寄せられ、仲間たちの共感を呼んだ」とのべておられる。奥むめお先生は、常に普段着の暮らしのなかから、婦人問題を提起してこられた。それだけに、この雑誌の記事もリアルでしかも具体的にあり、多様な人々が登場している点が、貴重である。

いわゆる戦前期から戦中の世界史的にも重要な一九二〇年代から四〇年代初頭にかけて、日本の働く女性がどのように生き、また問題を担い、さらにそれらに向かつて解決への努力をどのようにしていたかを知るのに、きわめて有意義である。女性史、労働史あるいは教育史、生活史、福祉史などの面からも、また日本研究が盛んな今日、おそらく海外からの注目もあびるであろう。

（長崎純心大学教授）

## 歴史の証言者『婦人運動』

●児玉勝子 こだまかつこ

私が初めて『婦人運動』に出会ったのは昭和三年だから約六〇年の昔になる。

その頃、郷里の信州から上京した私は、市川房枝氏の知遇を得て婦選獲得同盟の職員であった。同盟には毎月、友好団体の機関誌や女子学校の同窓会報、出版社の婦人雑誌などが交換や寄贈でたくさん送られて来ていた。それらを整理・保管するのが私の仕事の一つであり、その中に『婦人運動』があった。

月々、年々、積み上げられて行くこれらはそれ自身が貴重な歴史の証言者であった。

やがて、戦争が始まり空襲が激しくなると四谷見附にあった同盟事務所も危なくなつた時、市川氏はかけがえのないこれらの宝を都下八王子に家を借り疎開させた。戦後、婦人参政権が実現した時、これを記念して代々木の一角に小さなバラックの「婦選会館」が建てられ、資料類は疎開先からここに移された。

昭和三七年、会館は地上三階、地下一階の鉄筋本建築に改造、地下には一万冊収容可能な書庫が設けられて『婦人運動』もぶじここに落ちついた。長い旅であった。



## 女性運動の原点を たしかめるために

●中村紀伊 なかむらきい

〆の要求を掘り起こす「社会運動における第二線第三線——つまり前衛に対する後衛の仕事」に徹した。

『婦人運動』は、奥さんの特色ある仕事を伝える記録であるのみならず、当時の各種の女性運動のニュース提供の場所ともなっている。つねに無産運動の統一を訴えつづけたこの雑誌は、左は労働派の山川菊栄から右は社会民衆党の赤松明子にいたる男性・女性を問わぬ多彩の執筆陣を擁し、高群逸枝や林芙美子も寄稿者の常連であった。

（京都大学名誉教授）

『婦人運動』は、私が生まれる九カ月前の大正一二年六月に発刊され、昭和一六年に終刊しました。「子連れの婦人運動家」と呼ばれた母奥むめおは、兄と私の二人の子といっしょに懸命にこの雑誌を育ててきたよう



市ヶ谷職業婦人社にて。後列右から四人目・奥むめお、その手前の子供・中村紀伊。

〆です。小学生のころの私は、しばしば母と兄との三人で刷り上つてきた雑誌の帯封かけをし、夜ふけの郵便局まで投函に行つたものです。

時には近くにおられた林芙美子さんや新居格さんを一ひとりで訪ねて原稿をいただいていたこともありました。わけもわからずにやっていたのですが、懐かしい思い出です。

長じて、母と同じ道を歩むようになった私は、運動に行きづまると、わが家に保存されていた『婦人運動』の合本を開きました。そして、はっと我にかえるまで夢中で読みふけるのがつねでした。

そこには今日の女性問題と酷似する、ときには全く同じではないかと思わせるような課題が、つきからつきへと重層的かつ連続的に出現してきています。それに対して執筆者たちは、あせらず声高にならず一歩一歩目的を実現することを訴えています。

「若い働く女たち、貧しい母親たちと共に、ほんとうの女自身の地位に立ち返る運動をおこそう」と奥むめおは書いていますが、これは私たち運動に携わる者にとつては、つねにたしかめてみなければならぬ原点だろうと思います。この雑誌によって私は何度なくけしそになった自分を立て直すことができました。復刻版『婦人運動』は、おそらく皆さんのお役にも立つことと信じています。

（副主婦会館理事長）

〆『婦人運動』の主宰者奥むめお氏は、大正中期、平塚らいてう、市川房枝氏らと「新婦人協会」を創立し、治安警察法を改正、婦人の政治的自由獲得に道を拓いた人である。この度、由緒ある歴史を背負った『婦人運動』の復刻は女性史研究者にこの上ない贈物となるに違いない。

（婦選運動研究・故人）

「働く婦人の家」の前で。右から武田清子（大阪・働く婦人の家）・奥むめお。



## 近代女性史の残された宝庫

●松尾尊允 まつおたかよし

主婦連会長としての奥さんは余りにも有名だが、戦前の奥さんの仕事については、同じ一八九〇年代生まれの山川菊栄や市川房枝にくらべて知られることが少ない。自伝もようやく一昨年、『野火あかあかと』（ドメス出版）として刊行されたばかりである。今回、奥さんの仕事の中核をなす雑誌『婦人運動』が不二出版の手で復刻されることはまことによろこばしい。

市川房枝・平塚らいてうが退いたあとの新婦人協会を背負って、婦人参政権の第一歩としての治安警察法改正（女性の政治集会参加）をかちとったあと、奥さんは、議会に依存するそれまでの運動から手を引き、働く婦人の日常生活に根を下ろし、その中にひそむ社会改造、

## すべての働く 女のために

●丸岡秀子 まるおかひでこ

奥むめおさんといえは戦後生まれの人はおしやもじをトレードマークにした主婦連の運動を思い出すかもしれない。しかし私にとつて奥むめおさんといえは「婦人セツルメント」をつくり「働く婦人の家」を建て「婦人運動」を出しつづけた、ほんとうの意味での「働く女」の味方であり、仲間である。

私が奥さんといっしょに仕事をしたのは、一九二八年婦人消費組合協会ができ翌年その会報として発行された『婦人と家庭』の発行人となったときだった。当時私は二五歳、夫をその早春に喪い一歳の娘をかかえて産業組合中央会調査部に就職したばかりだった。そして私は恐慌と大凶作に瀕死の状態だった農村での女性の問題を調査するために北海道から九州まで全国を子供連れで旅し、歩きまわつたのだ。

奥さんも子供を背負い「ねんねこ姿の婦人運動家」と呼ばれながら「女が働くことは恥ずかしいことでも何でもなし」と同じ働く女を励まし、地道に仲間を増やし、あくまで女を主体とした運動をつづけた。

奥さんは男性主導の女性運動に懐疑を抱いており、また上から女たちを導いたり恩恵を施したりするのではなく、一般の女たちといっしょになって女にとってのもっとも切実な問題にひとつひとつ取り組んでいった。『婦人運動』が息長くつづいたのもその運動が本物であったからこそであり、一方また奥さんという母親の肩で育つたよき後継者を得たということもいうまでもない。

（評論家・故人）



関連図書

婦人新報 全60巻

日本キリスト教婦人矯風会刊

別冊解説・総目次・索引

解説五味百子

菊判・上製・総30,000頁

揃定価840,000円十税

最も歴史ある女性団体であり、廃娼運動・婦人参政権運動など、日本女性運動史の中でも大きな柱となった矯風会の活動の記録である本誌は、キリスト教史・日本近代史研究にとっても必須の資料である。  
〔明治21年〜昭和33年刊〕



婦女新聞 全68巻

付録2

福島四郎 主宰

付録『婦人界三十五年』

記事・執筆著索引

AS・BS判・上製

総38,500頁 揃定価1,000,000円十税



本誌は「男女が人格的に対等である意義を明らかにし、女子の能力を自由に発揮せしめるため、教育職業及政治経済上の機会均等を主張する」という趣旨のとおり、公娼廃止・母性保護・女子教育・婦人参政権など女性に関するあらゆる問題を報道し論じた貴重な資料である。〔明治33年〜昭和17年刊〕

廓清 全33巻

廓清会 刊

別冊解説・総目次・索引

付録『婦人矯風会年表ほか』

解説『山村氏民郎』

BS判・上製・総17,000頁 揃定価495,000円十税



底辺女性の救済を訴え続けた廃娼運動・廓清会の機関誌『廓清』は、島田三郎・安部磯雄・山室軍平ら運動推進者の思潮・悲惨な娼妓の生涯・検閲制度・業者と警察の結託等遊廓の実態報告、そして運動の経過・資料統計を常に掲載するなどまさに廃娼運動史の宝庫と言える。〔明治44年〜昭和20年刊〕

青鞥 総52冊

平塚らいてう・伊藤野枝 主宰

別冊解説・総目次・索引

解説『井手文字』

AS判・並製

総8,824頁 揃定価120,000円十税



「女流文学の発達を計り、女流の天才を生まむ」(青鞥社概則)ことを目的に出現した女性雑誌『青鞥』は、女性の自我の主張・人間としての個を求める、近代日本の女性解放の暁を知らせるものであった。女性問題を先駆けて世に問うた本誌が女性史・近代史に果たした役割は大きい。〔明治44年〜大正5年刊〕

番紅花 さくらん 全6号

尾竹一枝 主宰

別冊解説・総目次・索引

解説『渡辺澄子』

菊判・総1,408頁

揃定価315,000円十税(特装版入)



青鞥社を退社した尾竹一枝創刊による本誌は、東西の音楽・演劇・美術の紹介など、尾竹の初々しい興味と個性がいた「純芸術雑誌」であるが、何よりも神近やのちに宮崎資夫の妻となる八木麗子の小説、小林歌津の戯曲等々が掲載された独特の文学雑誌として重要な文献。〔大正3年3月〜8月刊〕

進め 全12巻

福田狂一ほか 編

別冊解説・総目次・索引

解説『田中真人』

BS・AS判・上製

総4,280頁 揃定価240,000円十税



第一次世界大戦後に創刊された社会運動機関誌。執筆陣は堺利彦・荒畑寒村・中浜鉄・徳田球一・小川未明など多彩を極め、大正デモクラシーの高揚とともに生成・発展、その終焉とともに思想的位相を大きく変質させていった本誌は、社会運動史資料の宝庫である。〔大正12年〜昭和6年・9年刊〕

『婦人運動』関連年表

太子は本誌関連事項

\*印は本誌掲載の論文・記事

- 一八八八年 『婦人新報』創刊
- (明治21) (日本キリスト教婦人矯風会機関誌)
- 一九〇〇年 『婦女新聞』創刊(福島四郎ら)
- 一九一一年 『廓清』創刊(廃娼団体・廓清会機関誌)
- 初めの女性の手による女性雑誌『青鞥』創刊(平塚らいてうら)
- 一九一四年 女性の手による芸術雑誌『番紅花』創刊(尾竹一枝ら)
- 一九一三年 婦人参政権獲得期同盟会発会
- 職業婦人同盟結成
- 職業婦人設立。機関誌『職業婦人』創刊
- 関東大震災
- 『職業婦人』休刊
- 社会運動雑誌『進め』創刊(福田狂一ら)
- 連載『職業婦人の立場から』
- アンケート「婦人が結婚後も引続いて職業に就いてゐることは幸福か? 不幸か?」
- 一九一四年 『職業婦人』再刊・改題、『婦人労働』
- 婦人参政権獲得期同盟会発会
- 職業婦人社内には婦人職業相談所を開設
- 『産児調節評論』創刊(山本宣治ら)
- 一九一五年 『婦人労働』改題、『婦人運動』
- 坂本真琴「五十歳に於ける婦人に関する諸案」
- 職業婦人社内主催東京職業婦人懇談会開催
- 大阪で職業婦人連盟第一回大会
- 婦人問題講演会(奥むめお・田島ひでら)
- 巻頭言「良妻賢母」主義の破綻
- 一九一七年 『婦人運動』創刊(婦人選獲得同盟機関誌)
- 婦人政治運動促進会(婦人同盟設立第一準備会)開催
- 奥むめお・田島ひで・坂本真琴ら
- 婦人参政権法案・婦人結社権法案・婦人公民法案を議会に提出。審議未了
- 関東消費組合連盟第6回大会。婦人部長に奥むめお
- 日本職業婦人連盟発会。会長に大江スミ子
- 奥むめお「産児調節」の問題
- 奥むめお「婦人政治運動促進会から婦人同盟まで」
- 婦人消費組合協会発会。委員長に奥むめお
- 職業婦人協会創立。奥むめおら
- 一九一八年 『社会運動通信』創刊。福田狂一ら
- 女性芸芸雑誌『女人芸術』創刊。長谷川時雨ら
- 高群逸枝「婦人運動の単一体系の新提唱」
- 無産婦人同盟結成。岩内とみえら
- 神近市子「深夜業の禁止法実施に就て」
- 一九一九年 平塚らいてう「婦人の緊縮運動」
- 女給同盟結成
- 第一回無産婦人協議会開催(奥むめお・堺真柄ら)
- 愛児女性協会(奥むめお、金子しげりら、産児制限相談所開設)
- 奥むめお、婦人セツルメント開設
- 婦人セツルメント、第二回講座開設「妊娠調節問題」
- 奥むめお「無産党分立反対」
- 奥むめお「婦人層が反動の危機に瀕してゐる」
- 山川菊栄「托児所の感想」
- 無産婦人大会
- 一九二一年 伊藤秀吉「紅燈下の彼女の生活」日本廃娼運動史出版
- 婦人セツルメント「妊娠する法しない法を教へます」
- 賀川豊彦「セツルメントの社会運動に於ける位置」
- 堕胎法改正期成同盟結成(平塚らいてう・奥むめおら)
- 職業婦人社関西支部発足(武田清子ら)
- 吉竹たか子「堕胎法改正期成同盟創立と真の産児制限運動について」
- 一九三三年 大阪に「働く婦人の家」を設立
- 鉦山における婦人・年少者の坑内作業・深夜作業の禁止実施
- 『輝ク』創刊(長谷川時雨ら)
- 「婦人闘争の根柢をたづねて」(連載)
- 母性保護法制定促進婦人連盟結成(委員長・山田わか)
- 社会芸芸雑誌『婦人文芸』創刊(神近市子ら)
- 一九三五年 東京・福井に「働く婦人の家」設立
- 奥むめお「国家的社会的婦人対策樹立の必要」妊娠女教員を休職せよという問題
- 東京を始めとして全国的に公営の母子ホーム設立
- 金子しげり「母性保護運動推進」
- 母子保護法公布
- 一九三七年 奥むめお「非常時に婦人の力を試さん」
- 婦人物価委員会結成(山田わか・吉岡弥生・奥むめおら)
- 一九三八年 奥むめお「生めよ殖やせよ、について」
- 市川房枝・赤松常子・奥むめおら産業報連盟に「産業報運動の徹底のため女子の声を聞け」と申し入れ
- 婦人選獲得同盟解散
- 奥むめお「男子に引きまはされる婦人会」愛国婦人会の改革
- 市川房枝「婦人を忘れた新国民組織」
- 家庭婦人雑誌の整理統合が警視庁により要請される
- 一九四一年 『婦人運動』廃刊
- 奥むめお「早婚奨励の波紋」
- 東京「働く婦人の家」婦人セツルメント閉鎖
- 一九四四年

性と社会 全3巻

山本宣治 主宰

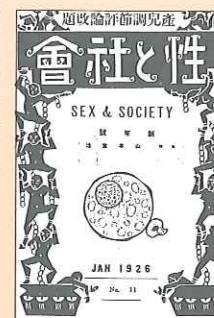
付録解説・総目次・索引

解説『山崎史家族制限法批判』

解説『佐々木敏一』

菊判・上製・総917頁 揃定価15,000円十税

産児制限の合理性、道徳性を訴え、避妊法を説き、性教育・人口問題を論じ続けた『産児調節評論』と改題誌『性と社会』を全号収録。三田村四郎・九津見房子などが困窮する労働者の立場から産児制限を唱えた。女性問題・社会運動史研究に貴重な文献といえよう。〔大正14年〜大正15年刊〕



社会運動通信 全40巻

日本社会運動通信社 刊

別冊解説・記事・地方別索引

解説『渡部徹』

AS・A3判・上製

総24,000頁 揃定価1,000,000円十税

本誌は、一九三〇年代社会運動の情報紙である。中央における政党・労働組合、諸団体等の記事は勿論、特に地方の情報を「争議日誌」欄に速報し、全国各地の労働運動の詳細を日々伝えており、社会運動史研究上、貴重な文献である。別冊に、記事索引・地方別索引(全2巻)を付す。〔昭和3年〜昭和15年刊〕



女人芸術 総48冊

長谷川時雨 主宰

別冊解説・総目次・索引

付録『女人大衆』36冊

解説『紅野敏郎』

AS判・並製・総9,400頁

揃定価15,000円十税



すべて女性の手になる女性の雑誌として発刊された本誌は、当初は婦人の階級的認識と、女人芸術の創造性を柱にしていたが、プロレタリア文学運動の高揚に刺激され左傾化、多くの女流作家を世に送り出すとともに、婦人の文化的・政治的啓蒙誌として重要な役割を果たした。〔昭和3年〜昭和7年刊〕

紅燈下の彼女の生活 日本廃娼運動史

解説『高橋喜久江』

四六判・上製・総1,207頁

揃定価15,000円十税



婦人矯風会とともに明治・大正・昭和期の公娼廃止運動の重要な支柱であった。廃娼団体「廓清会」の中心人物である伊藤秀吉が著した本書は、男女の民主主義者・キリスト者の良心が貫かれている。両書によって多くの人が、買春の歴史と娼妓を指した人々の苦闘の歴史を知り、その根源を考える上で恰好の書。〔昭和6年刊〕

輝ク 全2巻

長谷川時雨 主宰

別冊回想・解説・総目次・索引

回想『若林つや』解説『尾形明子』

BS・A3判・上製

総1,278頁 揃定価25,000円十税



『女人芸芸』廃刊後の女性文化人たちのネットワーク「輝く会」の機関誌『輝ク』全一〇二号と「輝ク部隊」による慰問文集『輝ク部隊「海の鏡」後「海の勇士」慰問文集』を収録。十五年戦争下の女性の文化活動を明らかにし、近代女性史の新たな検証を求め、復刻する。〔昭和8年〜昭和16年刊〕

婦人文芸 全10巻

神近市子 主宰

別冊解説・総目次・索引

解説『黒澤重里子』

菊判・上製・総6,300頁

揃定価150,000円十税



昭和一〇年代、女性の表現の場として求められた本誌は単なる芸芸雑誌に終わらず、フェミニズムをはっきり意識した雑誌となっていた。女性史・昭和文学研究に新しい示唆を与えるものとして全三七号を復刻する。〔昭和9年〜昭和12年刊〕

関連図書

『復刻版』の

『案内』



# 復刻版『婦人運動』

全30巻・別冊1

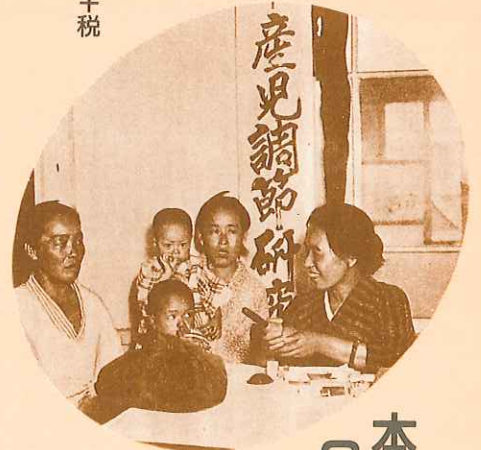
総約10,000ページ

A5判・B5判(第30巻のみ) 上製・函入り

全6回配本(完結)

別冊＝解説(鈴木裕子)・総目次・索引

別冊のみ分売可 2,000円＋税



本体揃価格

300,000円＋税

誌名の変遷(巻号数は原本の表記)

職業婦人 第一巻第一号～第三号  
婦人と労働 第二巻第一号～第三巻第七号  
婦人運動 第三巻第八号～第一九巻第八号

復刻版巻数 原本巻数/発行年月

第1回配本  
1990年6月  
本体価格  
50,000円

第1巻 第1巻第1号～第2巻第2号・号外  
(1923年6月～1924年5月)  
第2巻 第2巻第3号～第8号  
(1924年6月～12月)  
第3巻 第3巻第1号～第5号  
(1925年1月～6月)  
第4巻 第3巻第6号～第10号  
(1925年7月～12月)  
第5巻 第4巻第1号～第5号  
(1926年1月～6月)

第2回配本  
1990年9月  
本体価格  
50,000円

第6巻 第4巻第6号～第11号  
(1926年7月～12月)  
第7巻 第5巻第1号～第5号  
(1927年1月～5月)  
第8巻 第5巻第6号～第11号  
(1927年6月～12月)  
第9巻 第6巻第1号～第5号  
(1928年1月～6月)  
第10巻 第6巻第6号～第10号  
(1928年7月～11月)

第3回配本  
1990年12月  
本体価格  
50,000円

第11巻 第7巻第1号～第5号  
(1929年1月～5月)  
第12巻 第7巻第6号～第10号  
(1929年7月～12月)  
第13巻 第8巻第1号～第5号  
(1930年1月～6月)  
第14巻 第8巻第6号～第10号  
(1930年7月～12月)  
第15巻 第9巻第1号～第7号  
(1931年1月～10月)

復刻版巻数 原本巻数/発行年月

第4回配本  
1991年6月  
本体価格  
50,000円

第16巻 第10巻第1号～第5号  
(1932年1月～6月)  
第17巻 第10巻第6号～第10号  
(1932年7月～11月)  
第18巻 第11巻第1号～第4号  
(1933年1月～5月)  
第19巻 第11巻第5号～第9号  
(1933年6月～11月)  
第20巻 第12巻第1号～第5号  
(1934年1月～5月)

第5回配本  
1991年9月  
本体価格  
50,000円

第21巻 第12巻第6号～第9号  
(1934年7月～12月)  
第22巻 第13巻第1号～第5号  
(1935年1月～6月)  
第23巻 第13巻第6号～第9号  
(1935年7月～11月)  
第24巻 第14巻第1号～第5号  
(1936年1月～6月)  
第25巻 第14巻第6号～第9号  
(1936年7月～11月)

第6回配本  
1991年12月  
本体価格  
50,000円

第26巻 第15巻第1号～第5号  
(1937年1月～5月)  
第27巻 第15巻第6号～第10号  
(1937年6月～12月)  
第28巻 第16巻第1号～第6号  
(1938年1月～6月)  
第29巻 第16巻第7号～第17巻第1号  
(1938年8月～1939年1月)  
第30巻 第17巻第2号～第19巻第8号  
(1939年2月～1941年8月)

別冊 解説(鈴木裕子)・総目次・索引

●本カタログ中の表示価格は、  
全て消費税を含んでおりません。

不二出版

東京都文京区向丘一丁目二二  
TEL 〇三(三八二)四四三三  
FAX 〇三(三八二)四四六四  
振替 〇〇一六〇二一九四〇八四